

中央区まちづくり事業アイデア提案一覧

番号	1	2	3	4	5
タイトル（事務局）	市庁舎の建て替え	アートのまちづくり	清掃ボランティア券の発行	中央区探検隊プロジェクト	子どもたちの校区お宝探し
提案者	個人	個人	個人（校区町内会長）	個人（校区自治協会会長他）	NPO団体代表
1. まちづくりビジョンの該当項目	方向性2	方向性2	方向性1	方向性2	方向性2、3、4
2. 具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の再デザインを行います。 50階建てほどの行政、産業等の複合施設として建設しなおします。（余裕があれば、住居、大学も？） 例えば1階 総合受付 2階～15階商業施設 16～30階行政 31～50階 ホテル 等 	中央区をアートのまちにします。現在、河原町は市民レベルでアートの町たる芽が出ています。これを行政で後押しすれば、もっと爆発的に広がるのではないのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> 市民団体のアートの日に便乗して、熊本市（中央区）と一緒にイベントを打ち出していく 河原町一帯でアート活動をする人に補助金等 	ボランティア券発行・年12回（1枚300円） 市の公園及びその周囲の清掃参加者に配布（親子全て、年齢関係なく） この券は、加盟店にて使用できる。現在実施している事業で、毎月第3日曜の大江桜公園清掃と春と秋の味噌天神公園清掃で件を配布している。	中央区探検隊プロジェクトチームを編成する。2ヶ月に1回、テーマを決めて1回2時間程度、わくわくする中央区を探検する。案内人は、訪問校区のまちづくりグループが行う。探検参加応募と探検報告を「中央区まちづくりマガジン」に掲載する。	小学校区ごとにお宝探し <ul style="list-style-type: none"> 1校区2日間、お宝探しと物語り作り 地域の人に校区について聞き、子どもたちの目線でお宝発見 校区を探検し、見つけたお宝で新たな校区の物語作り 物語を学校や校区で発表（新たな歴史のスタート）
3. 取り組みのねらい	産業の活性化 景観作り 市役所職員の士気向上 土地の有効活用	産業の活性化観光、移住の誘発 雇用の創造 新たな熊本ブランドの確立	町内住民の親睦等 町内の商店街の活性化	校区を越えた探検によって、知らなかった中央区の魅力を、区民同士が共有できる。中央区全体のまちづくり交流のきっかけになる。	子ども、保護者、高齢者が同じ土俵で関わりあうことでまちづくりへ参加する第1歩としてもらう。
4. 取り組みの効果	産業の活性化 景観作り 市役所職員の士気向上 土地の有効活用	産業の活性化観光、移住の誘発 雇用の創造 新たな熊本ブランドの確立	町内住民の親睦等 町内の商店街の活性化	中央区に共通したまちや、まちづくりの連携が生まれ、区民の一体感の醸成ができる。まちづくりの交流ができることによって活力と賑わいのあるまちをるくる意識が高まる	住民同士のつながりが生まれ、自分たちの暮らすまち（校区）に対する意識が高まる。
5. 取り組みにあたっての課題	コスト→募金する 建設期間中、市役所職員が仕事のする場所の確保 建設後の改修工事	コスト 周知が難しい 時間がかかる	参加・加盟店の募集	PTチームの人数、メンバー選抜と参加者の応募の計画。参加費を取って多くの人に見てもらおう方法の検討	プログラムを進める人材の確保
6. 事業実施にあたってのあなたの役割	一市民として募金促進します。 一市民として市民協働の取り組みの中でアイデアを出します。	告知と一緒にがんばります。 必要とあれば、自ら作品を作ります。	総責任者	一新校区の案内。PTチームとの協議、ガイド班の編成。	・プログラムの運営 ・作り上げた物語をかたちとして残し、紹介
7. 事業実施にあたっての区民の役割	デザインや、階層等についてアイデアを出します。（市民協働）	芸術活動を行っている区民に、作品を作ってもらい河原町へ移す等	市の公園及びその周囲の清掃参加	「中央まちづくりマガジン」を見て、現地を訪問する。地域情報の提供。	スタッフとして、参加者として楽しむ
8. 事業実施について区役所の役割（区役所に望むこと）	チャレンジ精神で取り組みます。	熊本には河原町という場所がある。芸術の芽が出ているということを知ります。そのためにイベントの開催を積極的に行います。河原町のキーパーソンとコンタクトを取り、一緒に盛り上げます。	商店街に対し、ボランティア券100枚につき町内会費で3万円を支給しているが、その3分の1程度（1万円）の補助を行政でお願いしたい。	一体感のある中央区にするため、探検校区の調整など、まちづくり推進課とまちづくり交流室の役割が大事。訪問は現地集合、参加費用は参加者負担とするが、訪問先によっては行政からバスの提供も必要。参加者の保険加入について、支援してもらいたい。	・会場の確保、広報、予算 ・スタッフ、参加者として、校区を楽しみながら見る
9. 事業実施時期（始期から終期まで）	平成30年4月頃～平成38年4月頃まで	平成26年4月頃～平成38年4月頃まで	平成25年6月頃～平成26年3月頃まで	25年度後期から始めたい。遅くとも26年度よりスタートしたい。継続して中央区の校区を探検する。1年に6回として19校区を2順すると7年間。その他）ガイド役はボランティア保険の加入、参加者はレクリエーション保険などへの加入が必要	平成26年4月頃～平成27年3月頃まで
10. 提案事業の要件を満たしているか ※要件は3ページに記載	(4) を満たしていない	満たしている	単独校区での実施であれば、(6) を満たしていない	満たしている	満たしている

番号	6	7	8	9	10
タイトル（事務局）	防災キャラバンの開催	「命のバトン事業」の継続	水前寺界隈のまつり開催	障がい児就労体験「ぶれジョブ」の拡大支援	井手を生かしたまちづくり
提案者	NPO団体代表	校区社協長	まちづくり団体 代表	校区まちづくりの会 理事長	個人
1. まちづくりビジョンの該当項目	方向性3	方向性3、4	方向性2、3	方向性2、3、4	方向性2、3
2. 具体的な取り組み	防災をテーマに全校区で防災キャラバンを開催 ・小学校を会場にし、住民に学校を知ってもらう ・防災ウォークラリー ・町内対抗バケツリレー大会 ・体育館で避難所ゲーム 等	「命のバトン」をとおした地域支え合い体制づくり 「命のバトン」とは、災害時や緊急時に必要な情報を入れておく容器で、現在、自治会や民生委員、福祉協力員、ささえりあ等が組織的なネットワークの中で協力し合っている。誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの一環としてネットワーク強化に役立っている。	中央区にある「戸井ノ外公園」をコアとして、地元住民の「集いの会」「物産販売」「街ブラ」を開催する。具体的には、水前寺駅前、国府、水前寺参道周辺の地元の方々を中心に、区民の方々と①野外ミニライブ、ショートコンサート等、②水前寺・肥後野菜等の販売、③飲食店舗をチケット制で食べ歩くスタンプラリーを一日かけて実施。定期的な開催を計画。	地域での福祉イノベーションの構築。現在一新・城西・黒髪校区で行われている「ぶれジョブ」全校区に広げる。「ぶれジョブ」とは知的・発達障がいなど支援を必要とする子どもたちを対象としたお仕事体験プログラムで、障がい児に社会性・適応性を育むとともに、地域の方に障がい者に対する理解を深めていく活動。	中央区を縦断する熊本水遺産である渡鹿堰から大井手、一の井手、二の井手、三の井出やその沿岸を一体（シンボル）とした保全と活用によるまちづくり。白川や坪井川、諸用水なども連携する。
3. 取り組みのねらい	校区の運動会のように防災イベントを行うことで、近所のつながりを持ってもらうきっかけとする。	一人暮らし等の方々の安心と安全の補助、配布事業を通して対象者を把握し、自治会と民生委員が協働して取り組むことができる。	街ぐるみのお祭りを開催することで、街の賑わいづくり・住民とおしの「交流」を盛んにさせるところがねらいである。	地域と福祉（特に障がい児）との絆地域のセーフティネットの仕組みづくり	住宅地の中で見過ごしてきた「用水」という一つのテーマで切り取ることで、中心市街地や城下町だけではない中央区を顕在化させる。
4. 取り組みの効果	防災についての知識はもちろん、まちづくりで大切な人と人とのつながりをつくることができる。	この活動を通して、推進主体である自治会と民生委員の協力体制が図られ、まちづくりビジョン目標達成の条件づくりに役立った。	街ぐるみのお祭りによって、活力のある街、住民とおしの信頼があふれる安心・安全なまちづくりに効果があると考えられる。	地域社会に暮らす人々に対して、障がいのある子どもたちとの直接的な接触経験を増やして理解する機会をつくれば「障がいのある子」として見る視点から「未来の地域をつくる仲間」の視点に質的に変化するのでは。	熊本市が掲げる「水の都」を区民が実感し、豊かな生活空間づくりに寄与する。また、今年の豪雨で用水が溢れたように、日常から用水に触れることで防災意識を高める。
5. 取り組みにあたっての課題	地域、学校、PTAとの連絡と取りまとめ	現在、中央区では5校区で取り組まれているが、事業費の捻出が困難。（1000本購入で、1本当たり600円程度）	参加店舗が商業ベースに走るのではなく、街全体の賑わいづくり、活性化、住民・区民とおしのつながりを深めるための取り組みであることを重々に認識していただく。	説明会会場の確保、パンフレットの作成	範囲が漠然とし、また具体的な取り組みに至っていない。そのために、今すぐに単年度事業としては、実現が難しい。
6. 事業実施にあたってのあなたの役割	・コンテンツの提供 ・キャラバンの運営	・当校区で実践した事例を伝えることができる。 ・他校区の取り組みを紹介することができる。	「街ブラ」、コンサート、ライブ、ショーの全体を通しての企画立案、周りとの調整、実施結果の分析を行い、次回以降参加店舗を増やし、さらなる「街ブラ」の深化を図る。	説明者となって各会場に出向く	各地域の下調べや連絡事項など
7. 事業実施にあたっての区民の役割	・地域、PTA、学校も参加しての運営会議	見守る担い手のひとりとして、地域支えあいネットワークに協力することができる。	積極的に「街ブラ」に参加していただき、区民とおしの連帯感を深めていきたい。	地域の受け入れ企業やサポーターを探す	用水沿岸地域の現在の取り組みや課題を俎上に挙げる。
8. 事業実施について区役所の役割（区役所に望むこと）	地域、PTA、学校との調整、参加、広報	最初から全ての高齢者等を対象にすることはできないが、地域で安心して暮らせる地域福祉活動の一環として事業化してほしい。	「街ブラ」開催を広報誌で呼びかけていただく。ライブ等周辺の住民への理解と協力を呼びかけていただく。	説明会場の確保とパンフレット作成費用	すぐには事業化できない提案だと思えますので、長期ビジョンで懇話会の話題にいただければ幸いです。
9. 事業実施時期（始期から終期まで）	平成26年4月頃 ～ 平成27年3月頃まで	平成26年4月頃 ～ 平成30年3月頃まで	平成26年11月頃 ～ 平成26年11月頃まで	平成25年9月頃 ～ 平成26年12月頃まで	随時
10. 提案事業の要件を満たしているか ※要件は3ページに記載	満たしている	単独校区での実施であれば、(6)の同一地域で現在行われているに該当	満たしている	満たしている	満たしている

番号	11	12	13
タイトル（事務局）	シルバー活性プロジェクト	校区の町内割入電子地図の作成と活用	地域で謡曲体験教室
提案者	放送事業者	校区社協会代表	NPO法人 代表
1. まちづくりビジョンの該当項目	方向性2、4	方向性3、4	方向性1
2. 具体的な取り組み	「シルバー活性プロジェクト」（名称案）中央区をいくつかのチームに分け、それぞれにシニアの方々が集まり、お互いの経験、知識、アイデアと講座等で学びを活かしてプロジェクトを実行するもの。年間を通してプログラムし、例えば集大成として地域のイベントの企画運営を行ったり、次世代育成のプログラムを実施したりなどただの集まりに終わらない実践型のプロジェクト。	校区のどの団体でも活用できるマップ作りを、社協三日会の6校区合同で実施する。・各校区のマップの原版になる地図の電子データ（町内区割）を作成。・原版を基に各校区「子育て」「高齢者見守り」「防犯」「交通安全」「防災」等の目的に合わせたマップを作る。・完成したマップを「わくわくwebタウン」などネット上に載せる。各校区は必要に応じてペーパー化し配布。担当者講習会の実施	地域の大人から子供まで参加して行う謡曲体験教室を企画する。場所は夏目漱石内坪井旧居で春か秋の1日か2日で開催。幼年部、青年部と分け、幼年部は小中学生対象、青年部は高校生以上の成人とし、参加者は熊本市の公募とする。参加人員は幼年部 20人程度。「吾輩は猫である」に登場する「熊野」や、「草枕」の下地となった「求塚」などの謡曲体験や、漱石の作品を鑑賞し、古典芸能が与えた影響などを学習する。
3. 取り組みのねらい	元気なシニア世代のパワーを地域に活かす 定年後間もない方々（サラリーマンリタイヤ）が集い、一つのものを作り上げる	「つながる中央区」のスローガンの趣旨に沿った、6校区のつながりを深め、「ささえりあ」との協働にも役立てる。	文豪漱石が愛した熊本の謡曲の理解を深めることで、郷土愛、伝統芸能への関心を広める。
4. 取り組みの効果	シニア世代の活用アップと実践を取り入れることによる地域活動の新たな展開（単なる自治活動に終わらない展開）	・校区間の絆の強化と、今後の協力体制を作ることができる。・長期間の校区内活動に役立ち、最新情報に転換できる。・いつでも必要に応じてペーパー化できる。隣接校区の情報が得やすい。	3年後に没後100年を迎える夏目漱石を、熊本として顕彰する意味においても、熊本時代への漱石文学への理解を深める。伝統文化を重視する熊本の地域性を再確認し、ふるさと熊本への誇りを育む。 ・参加者募集、特に幼年部への勧誘方法 ・障がい者への対応。記録、成果の公表などの手段
5. 取り組みにあたっての課題	1年間を通してどんなプログラムが効果的か チーム分けと各チームの人数 どんな形の実践が効果的か	・6校区の日程調整と会場の確保 ・原版作り（町内境界の入力） ・校区内での作業担当者の選定 ・受講回数・作業回数がどのくらいになるか、現時点で未定	・指導講師派遣にあたり、有償の場合の費用
6. 事業実施にあたってのあなたの役割	まちづくりを取材という形でみてきた第三者的な立場と、各種イベント運営を展開してきた視点から、全体のコーディネート	・別タイプのマップ作りの経験を生かして、未熟ながら企画・準備の一員として協力	事前準備、会場設営、講師派遣（有料の可能性もあり）
7. 事業実施にあたっての区民の役割	まちづくりへの積極的な参画と交流及び達成感	完成後は各団体の活動に十分貢献でき、安心・安全、健やかなまちづくりの類似パターン化ができる。	たくさん参加してください。裏方ボランティアは歓迎します。
8. 事業実施について区役所の役割（区役所に望むこと）	・ 会場の設定 ・ 区別への呼びかけ、期待する内容の抽出	・ 講習会の講師の手配 ・ 交通便のよい公共施設を使用させていただきたい ・ 実績のある「保健子ども課」の協力をいただきたい	告知、できれば、市報や市の施設をとおし、参加者を公募させていただきたい。参加費はできるだけ少なくしたいので、予算化を願いたい。10万程度。会場代も無償貸与を希望。
9. 事業実施時期（始期から終期まで）	平成26年4月頃～平成27年3月頃まで		平成26年4月頃～平成26年4月頃まで
10. 提案事業の要件を満たしているか ※要件は3ページに記載	満たしている	満たしている	満たしている

提案事業の要件

提案していただく事業は下記の要件をすべて満たすものとします。

- (1) 中央区まちづくりビジョンの方向性に即していること
- (2) 地域が抱える課題に対応していること
- (3) 単なる陳情・要望でないこと
- (4) 施設等の建設や整備を目的としたものでないこと
- (5) 実現可能であること
- (6) 同一地域（校区）で各種団体等により現在行われていないものであること
- (7) 市又は区の事業として現在行われていないものであること
- (8) 営利目的及び特定の個人や団体のみが利益を受けるものでないこと
- (9) 政治、宗教活動及び営利活動を目的としたもの